
イキルレイシ

要徹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イキルイシ

【著者名】

ノーノード

N7955

【作者名】

要徹

【あらすじ】

「どうして、こんな世の中になつちましたんだうなあ

」

真つ暗な駅のホームに、明々とした照明をぶら下げた電車がやつてきた。

時刻は〇時過ぎ。もうそろそろ終電の時間だ。そのためか、多くの人間がその電車に乗り込んだ。乗車した客は例外なく死んだ目をしていて、相当疲れているものと見える。背中を猫のように丸め、スーツは草臥れ、髪は乱れに乱れており、まるで落ち武者のようである。

車掌が両ごとに切符を切つて回る。目的地への片道切符を手に持ち、皆が車掌を待っている。車掌は一枚、また一枚と切符を切つていぐ。切符を切られた客は、その後ぐつたりとして、

「ありがとう」

と呟いた。

次の駅、次の駅と行くにつれ、客は増え始める。さつきまではサラリーマン風の人間ばかりだったが、今の車内には学生も混じり始めている。中には、どこかで転んだのか、傷だらけで乗車する者もいた。

「どうして、こんな世の中になっちゃったんだろうなあ」

車掌はぼやかすにはいられなかつた。毎日、毎日死んだ魚の目をした人間の切符を切る、そんな生活は嫌だつた。誰も生きる希望など持たず、誰もその列車に乗ることをためらわない。何の未練もなく、ただ乗車する。

終着駅の手前で、一人、気になる客が乗りこんできた。

その客は、手に家族の写真を持っていた。写真に写つている、妻と見られる女性はとても幸せそうな笑みを浮かべている。その女性の隣に、二人の男の子が写つていた。きっと、彼らは成長すればたくましい男になるだろう。

客は、車掌に無言で切符を手渡す。

「本当にいいのかい？」

客は何も答えなかつた。ただ切符を差し出して、うつむいたままでいた。客は、かすかに涙を流し、体を小刻みに震わせていた。

車掌は小さくため息をつき、言つた。

「あなたはまだこの電車に乗るべきじゃないな。せ、降りて家に帰るんだ。家族が待つてゐるのだろう?」

客は顔を上げ、笑いかけた。

「そうだね。ありがとう」

深々と頭を下げ、彼は電車を降りて去つて行つた。
暗闇にサーチライトを当て、終着駅を照らす。しかし、いくら光を強くしても、先は見えない。終着駅は、永遠に見ることは出来ない。いや、見ないほうがいい。君たちも、いづれこの地を訪れることになるだろうから。

車掌は、マイクを手に取り言つた。

「次は終点、黄泉の国、黄泉の国。」この世に未練のある方、生きる意志のある方は、今すぐ下車してください。もう一度この世には戻れません。間もなく、発車いたします」

(後書き)

「テフレの影響が、生命というモノが安くなってきましたね。命の価値は、決して値下がりしてほしくないものです。あなたが今、捨てようとしているソレは、どれだけの価値があるのでしょうか。」

今一度、命の価値を考えてみると良いかもしません。決して安いものだと気づくはずです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n79551/>

イキルイシ

2010年10月10日17時11分発行